

け 健康を証明妊婦健診で
 <<妊婦健診>>

妊娠・出産は女性にとって生涯での一大イベントであり、幸せに満ちたものです。そのうえまた妊娠には、妊娠した女性自身にとっても格好の精度の高い「健康診断」になるといふ副効用もあります。

病院で行う臨床検査には「負荷試験」といわれるものがあります。これは、病気があっても通常の状態では表に現れない場合に、体に一定の刺激・負担をかけて病気の症状を炙り出そうとするものです。例えば心電図を、トレッドミル（ベルトコンベアのようなもの）の上を歩きながら行くと、平常時には見られなかった狭心症の所見などが明瞭に現れる場合があります。また糖尿病の方は、たとえ普段（空腹時）の血糖値は正常でも、糖水を飲んでから再度採血するとぐんと血糖値が上昇することから診断がなされます。

妊娠というのは、お腹に4.5kg（胎児+胎盤+羊水）の巨大腫瘍がある状態であるだけでなく、体を循環する血液の量は普通の人5割増しもあり、さらに胎盤から出される多量のステロイドホルモンも加わるといふ、生半可ではない負荷がかかった状態です。もし高血圧、糖尿病、心臓病、腎臓病（生活習慣病といわれるような病気）がもしも潜んでいれば、この妊娠という大きな負荷によって忽ち炙りだされて来ることになります。

母子健康手帳を見れば分かるように、妊婦健診では血圧、尿蛋白・尿糖、浮腫の有無、体重を毎回検査するようになってい



例えば妊娠中に血圧が高いと言われた方は、産後血圧が元に戻ったとしても、将来（主に40代以降）高血圧が発症してくる可能性があります。これを機に、定期的に血圧をチェックしたり、塩分の取りすぎに注意したりすれば、妊娠という「健康診断」を受けた甲斐があったというものです。同様に尿糖を何回も指摘された方は糖尿病に注意です。

逆に、妊娠・出産を通して高血圧、尿蛋白、尿糖などの異常を全く指摘されなかった方はものすごく健康ということになります。普通の健康診断で「異常なし」と言われた場合よりも高い精度で「異常なし」ということです。

なお、妊娠中に（以前から申し込んでいた人間ドックなどで）通常の健康診断を受ける場合があります。この場合多くの妊婦さんが異常といわれる項目が2つありますので付け加えておきます。それはコレステロール値（他に中性脂肪も）と白血球数です。コレステロール値が300mg/dl以下、白血球数では12000/mm³以下ならば妊娠の影響と考えてよいでしょう。妊婦健診の時、妊婦さんが「あのお、実は健康診断で・・・」と言い終わらないうちに、「コレステロールが高い、白血球が多いと言われたのでしょうか」とマジシャンのように言う産科医もいます。

ふ VBAC 経産婦には違いない
 <<前回帝王切開の出産>>

前回は帝王切開分娩で、その後に経膈分娩することを、vaginal birth after Cesareanの頭文字をとってVBAC（ブイバック）といいます。VBACでは前回の帝王切開時の子宮の傷が、陣痛とともに破裂する危険性が問題となります。

近年帝王切開率の上昇により、前回の出産が帝王切開である妊婦さんの割合も年々増加し、99年には8%台だったのが、近年は14%前後になっています。前回帝王切開例の取り扱いは、産科学の中でも大きなテーマの1つです。

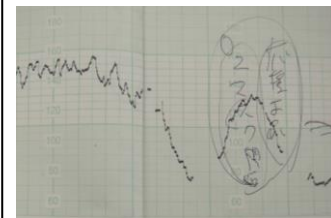
この問題が難しいのは、子宮の破裂が起こる確率は、前回は帝王切開でない場合の10倍とはいえ0.5%（200回に1回）程度で、自然に出産できる場合も多いことです。最初から「全員帝王切開」の方針でもよいのですが、稀ながら帝王切開による母体の大出血や血栓症等のリスクがあるため、その方が結果が良くなる証拠はありません。もし子宮破裂の確率が10%もあれば、迷わず全例帝王切開でよいでしょう。

当院では、条件が良く、妊婦さんの希望がある場合には、経膈分娩の方針としており、前回帝王切開の方の23%が自然に産んでいます。条件が良い方とは、1）前回帝王切開の理由が骨盤位（逆子）などで、

今回の出産に影響を与えない、2）前回の手術後の経過が良好、3）今回の出産近くで子宮口が柔らかくなっている、などです。

VBACに成功された方の平均分娩所要時間は8時間31分で（図）、下から産むのは初めてにもかかわらず、普通の初産婦よりかなり短く、経産婦に近くなっていました。やはり2回目の妊娠・出産には違いなく、体がそれ相応の変化をしているということでしょう。

当院の15年間で子宮破裂を起こした方が1例だけありました。図のように分娩中急激に胎児心音が徐脈となっています。



このように発見が早く、産科・麻酔科・小児科の連携で速やかに帝王切開が行えたため母子とも無事でした（写真）。この方はまだ妊娠36週で子宮口が硬く、上記の3）の条件を満たしていなかったと思われます。

このように発見が早く、産科・麻酔科・小児科の連携で速やかに帝王切開が行えたため母子とも無事でした（写真）。この方はまだ妊娠36週で子宮口が硬く、上記の3）の条件を満たしていなかったと思われます。

「帝王切開は何回までできますか」という質問に対し、「3回は大丈夫」というのが一般的な回答です。実際当院の15年間で3回目の帝王切開の方は190名、4回目の方も15名いらして、もちろん全員帝王切開でしたが無事終了しています。しかし何と7回帝王切開をしたギネス級の記録もあります。7回目も癒着等も軽く手術は普通に終了しました。上には上があるものです。

